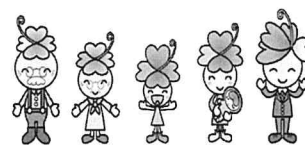


令和5年度 事業報告



令和5年度事業の概要

令和5年度は第2次姉崎地区行動計画のスタート年度であり、市原市第6次地域福祉活動計画と連携・連動し、住民の皆さまと一体となり地域共生社会の実現を目指すための事業を推進してまいりました。その結果は下記のとおりです。

- ① 既存事業の見直しや、定着化、また、コロナ禍以降中止していた事業の復活
- ② 第2層協議体から提案された日常生活支援事業「あねさきチョコっとサービス」は、プロジェクトチームを結成し、本格実施に向けて調整中
- ③ 福祉意識の醸成、人材育成・確保へ向けて全員が一体となり活動に取り組む。
- ④ 地区行動計画の実施に向け、SDGsに考慮し、PDCAを意識し行動
- ⑤ 防災・減災の取り組みとして、訓練や研修を行う。(令和5年度未実施)

「基本目標」：地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり【共感】

1.地域・福祉を知る機会の充実「福祉意識の醸成」

(1)広報部会

- ① 広報誌「そよ風」第58号(7月)、第59号(12月)を発行
- ② 発行数 10,500部
- ③ 今後へ SNS等の新たな情報発信を行う予定であったが、次年度へ持ち越しとなった。

(2)福祉バザー

従来のバザーから子どもから高齢者の誰もが楽しめるようなフェスティバル風の地域交流の場、また、歳末たすけあい運動、アネッサ25周年記念としてコロナ禍以降4年振りに「アネッサ福祉祭りバザー」を開催した。

- ① 開催日時 ・ 令和5年11月3日(金) 10時～12時 アネッサ
- ② 売上額 ・ 367,688円
- ③ 今後へ ・ 500名強の参加者が来場され、子どもから大人まで大勢の方に楽しんでいただいた。
・ 物品の販売だけでなく、軽食の販売や、イベントとしてアネッサ登録サークルの演奏・発表会も開催。
・ 開催時間の見直しや、会場動線の確保など初回開催の反省点を次年度で改していく。

(3)制服リユース事業

「生活困窮者支援及び高齢者の活躍の場づくり」を目的に活動を進めている。内容は姉崎地域の中学校卒業生の家庭から不要となった制服を譲って頂き、必要とするご家庭に無償で提供する活動です。

※令和5年度は制度化に向けた検討・調整を実施

- ・令和5年11月：「アネッサ福祉祭り」にて事業内容の周知・PRを実施。
- ・令和5年10～2月：3小学校、2中学校訪問し、事業説明及び協力依頼、情報収集を実施
- ・課題としては、貸与者への配慮や転売対応、令和7年度に3中学校(姉崎東・姉崎・有秋中)の制服がブレザーに更新されることなどが挙げられる。

2.人と人とのふれあいを育む場の推進

(1)共生型サロン事業（ニコニコサロン）

本年度から世代を問わない共生型サロンへ移行した。また、アネッサとの共催事業として一本化し、月に1回アネッサ体育室で開催。令和5年6月より参加者からの公募で「ニコニコサロン」に名称を決定した。

- ①日時・場所 ・毎月第4水曜日 アネッサ 体育室
- ②参加者数 ・延べ425名、11回 スタッフ数：3班に分割し開催 延べ132名
- ③事業内容： ・軽運動及び演奏会や歌唱などのイベントを実施
- ④今後へ ・コロナも収束し、平均40名ほどの方が参加され、イベントも好評であった。男性参加者が少ないため、周知の検討が必要

(2)子育てサロン事業（姉崎公民館共催）

“乳幼児&親”を対象とした事業として継続する。コロナも収束し、安定的な参加者がこられた。

- ①日時・場所 ・毎月第3金曜日 姉崎公民館
- ②参加者数 ・延べ223名、11回
- ③事業内容 ・子育て中のパパ・ママの相談にのり、子ども達と一緒に遊んだ。
- ④今後へ ・開催に向けて、周知徹底する。

(3)地域食堂「げんき食堂アネッサ」の開催

元気な高齢者、高校生ボランティアの応援参加のもと、小学生を中心とした「子どもの居場所づくり」を実施した。

- ①日時・場所 ・ 毎月第 4 土曜日 アネッサ 実習室・ボランティアルーム
- ②目的
 - ・ 子ども、高齢者の居場所づくり、若者の担い手づくり
 - ・ 「子育て世帯・高齢者の孤立防止」、「地域のつながり」の場を目指した。
- ③周知
 - ・ 毎月、姉崎地区内の小学校へチラシを配布
- ④参加者
 - ・ 参加者延べ 144 名 / スタッフ及びボランティア延べ 139 名
- ⑤事業内容
 - ・ 自由遊び、勉強、折り紙、季節の遊びを盛り込み開催
 - ・ ボランティアによる手づくりの美味しいカレー、ゼリーの会食（昼食）
- ⑥今後へ
 - ・ 小学校の行事と重複してしまうことがあったため、次年度は学校行事との調整を行う。

(4)あそびばアネッサの開催（地域福祉支援事業&姉崎保健福祉センター共催）

本年度も、毎月実施の地域（子ども）食堂「げんき食堂アネッサ」の拡大版として多くの地域住民の参加を呼びかけ開催した。

- ①日時・場所 ・ 令和 5 年 1 2 月 1 0 日(日) 1 0 時～ 1 3 時 アネッサ体育室
- ②開催目的
 - ・ 世代を超えた交流の場づくり
 - 参加者全員の総力で「共生社会の実現」に向けて開催
 - ・ 元気な高齢者の活躍の場づくり、こども達の居場所づくり
- ③参加者
 - ・ 一般参加者延べ 4 9 名(子ども：3 2 名、保護者 1 7 名)
 - ・ スタッフ及びボランティア延べ 3 8 名
 - (内訳：うぐいす卓球サークル、市原ジャグリングサークル JugJug、元気な高齢者)
- ④今後へ
 - ・ 開催の認知度アップを図る(小・中・高校生を含め、家庭への PR 強化)。
 - ・ 目的の達成は概ねできているため、これを持続できるようにする。

1.地域で孤立させない取り組みの強化

(1) おしゃべりカフェ（相談支援事業）

地域住民の「悩み・困り事」等を気軽にお茶・コーヒーを飲みながら、「ちょっと
いっぶくの気持ちでおしゃべりできる空間」を創っている。

- ①開催日時 ・ 原則毎月第 1 水曜日 10 時～12 時 アネッサ相談室 2
- ②相談者数 ・ 延べ 9 名
- ③今後へ ・ 昨年度から引き続き、ゆったりとした会話のできる場の提供を目指し
開催したものの、来場者数は昨年度の半分以下という結果に終わった。
・ 開催を継続し、他事業への窓口・受付となるような仕組みづくりを検討していく。

(2) 日常生活支援事業【姉崎（チョコっと）サービス】（あねチョコ）

高齢者地域支え合い事業（第 2 層協議体）と一体となり、令和 5 年度 4 月から
の試行実施を開始した。

- ①活動概要 ・ 地域福祉関係者による日頃の見守り活動の中で気づいた事を相談、
作業実施で対応する。
・ 素人ができるちょっとした 7 つの作業に限定（ゴミ出し、部屋の掃
除、草刈り、電球交換等）
- ②活動状況 ・ 利用件数 15 件 【内訳：実施 6 件、対象外 3 件、相談対応 4 件、
検討中 2 件】
実施した支援：ゴミ出し 1 件、庭の草刈り 3 件、部屋掃除 1 件、
話し相手 1 件
- ③今後へ ・ 試行実施により事前の実施判断・現場確認のマッチングが重要であ
ることが分かった。
・ 庭木の剪定など作業時間短縮のために草刈り機を購入し、それを扱
う“専門チーム”を編成する。
・ 利用件数が少ないため、地域福祉関係者への周知及び説明を行う。
・ 試行実施により、多くの課題や検討事項が見えてきたが、必要とす
る住民がいることは分かったため次年度より本格実施に移行する。

2.生活を支えるための体制強化

(1)近隣地区社協との連携・事業

有秋地区社協との連絡会を開催

- ① 開催月日 令和6年2月26日 18時～19時 有秋公民館
- ② テーマ アネッサ福祉避難所開設に向けた勉強会、及び交流親睦会

「基本目標3：地域で安心して暮らすための基盤づくり」【共生】

1.地域で活躍する人材の育成

(1) 市社協「送迎ボランティアサービス事業」の活性化に向けた協力

本事業は、市社協事業の「送迎ボランティアサービス事業」を姉崎地区で活性化を図るとともに「ボランティア活動の意識高揚」、「人材づくり、担い手探し」及び「地区内の交通弱者の支援」を目的とした協力事業である。

①活動内容

・養成講座には姉崎地区から1名が参加し、ボランティア登録した。

- ②今後へ
- ・姉崎地区内での養成講座の開催はできなかったが、送迎ボランティアの活動は活発に行われた。
 - ・養成講座を町会へ周知する際、早期の周知が必要との要望があった。

2.災害対応力の体制構築

(1)災害ボランティア研修会・講座・訓練への参加

- ①12月9日 災害ボランティアステップアップ研修会 1名参加

災害現場に赴いた時の準備品・装備品・現場での注意点などを体験した。

②次年度への取り組み

災害ボランティアに関する研修会や訓練の参加による「経験・体験」をとおして、災害ボランティア活動への意識の高揚を図り、災害時に地域住民の助け合い・支え合い活動ができる地域を目指す。